

## 10月定例会議議事録

【10月26日（月）1600～1820：ウッドオフィス5F会議室】

### 1 参加者（11名）

吉田明生、名取貞、岡田満、柏木白光、小川知彦、根本大輔、井上幸珠、東谷淳、濱崎哲郎、杉山理、根本健児

### 2 議事（要旨）

#### (1) 組織改編

##### ① 理事承認

- ・小川知彦理事の就任挨拶
- ・代表理事及び理事の再任承認
- ・大西清理事の退任

##### ② 事務局長交代の承認

- ・井上朋美事務局長の退任、根本大輔事務局長挨拶

#### (2) 決算報告（令和元年8月1日～令和2年7月31日）の承認

#### (3) 第2回防災グッズ展の反省及び教訓事項について

##### ① 経費：「第2回防災グッズ大賞展実施計画／経費総括」に基づいて説明

- ・承認
  - ・ただし、ビジネスガイド社の諸費用請求が出てくるのは、約1ヶ月を要する見込み。
- ・審議
  - ・「会議等参加費未払い金」の支払いについて承認
    - ・旅費の支払いはなし  
(第1回防災グッズ展往復旅費160,000円、井上旅費80,000円を除く。)
    - ・今後の会議は、常時、ZOOM併用とし、会議への参集参加は、ボランティアとする。
    - ・拠出金残金については、努めて早期に支払うべき。
    - ・支払いについて、検討する。

##### ② 成果について説明

- ・アンケート調査結果

- ・ロゴマークの使用申込み
- ・商材の取り扱い及び企画申込み等（京王デパート他）
- ・御礼状発出等

③ 課題及び成果反映のための施策等（自由討議）

- ・来場者からは、災害防止研究所に関する質問が多く、災害防止研究所の活動に関心を示す方が多かった。用意した資料は、あつという間になくなった。防災グッズ販売よりも、研究所本来の活動をアピールできるように努力すべきだと思うし、そのニーズはある。
- ・何故、表彰したのか選考理由を説明する資料、例えば今回用意していたプレスリリース資料を一般来場者に配付することも必要なのではないか。
- ・後半は、アンケート調査よりも、研究所の説明や入会案内に注力したが、研究所そのものを広報して、入会を勧める良い機会だと思う。次回は、それを狙いとした配付資料を用意する必要がある。
- ・営業時、企業に入会案内をするための勧誘資料が欲しい。現在のブリーフィング資料に、入会案内を充実して欲しい。特に会員のメリットを強調、記述してもらいたい。
- ・おみくじ工房の防災グッズ販売と差別化が必要だ。研究所が何をやりたいのか、防災グッズ展の場で何を見せて、伝え、情報発信するのか。研究所の立場をはっきりとさせた方が良い。
- ・定款第3条には「当法人は、災害防止、危機管理等の啓発・普及活動を通じて、心身健全かつ快適な生活、平和で安全・安心な地域社会の実現に貢献し、併せて、災害の歴史のなかで、厳しい自然環境と調和して育まれてきた日本の文化・伝統の素晴らしさを再発見して、情報を発信し発展させることを目的とする。」とあるが、一般社団法人設立の精神は、「～、併せて」以下の部分にある。前半部分は、どこの法人でも語っているが、「～、併せて」以下を謳っている団体はないと思う。  
 他の団体とは異なる特徴を出して、具現化していくべきではないか。災害防止研究所にしかできない活動をするなかで収益をあげる努力をしていけば良い。  
 収益追求の話ばかりに偏ると、当法人の特徴が失われてしまい、存在意義がなくなってしまうように思う。
- ・一般社団法人が収益を追求してはいけないということではないので、防災グッズ展の場から独自の公益性をどのように情報発信していったら、良いかを検討すべきだ。

- ・政府（施策）とのつながりを作り、バックアップを獲得して、公益性を前面に押し出すなどは一つの方法だと思う。また、新製品の開発、企業間連携のコーディネート、商品開発援助等は、研究所らしい、独自性を発揮できる活動になる。
- ・映像を扱う理事がいらっしゃるので、例えば、会場で映像を流すのも良いだろう。これだけ異業種の理事が積極的に関わっている会には他にはないと思うので、工夫と努力をすれば、特徴を出すことは実現可能ではないか。
- ・自衛隊や宗教との関わりには、誤解を招かぬよう、慎重に一線を画すべきで、中立性を保っておく方が、幅広い支持を得ることができる。自衛隊を支持する方たちも多く、インパクトが大きいので、良くも悪くも注意する必要がある。
- ・おみくじ工房の名前と、代表が自衛隊OBだというだけで、右翼に偏った活動をしているように見える人がいるので、防災グッズ購入について、社内で役員会の支持を得るのが難しい、という会社もあった。
- ・現在、防災グッズ工房の商標を申請中なので、商標が取れ次第、株式会社を立ち上げて、(株)おみくじ工房とは、別組織にしたいと考えている。
- ・(株)おみくじ工房の杉山社長が事務局に入っているが、事務局の役職を外して活動していただくことを検討している。(株)おみくじ工房は法人会員になっているので問題なく連携することはできる。定款上、正会員・社員として連携を取ることができる。
- ・認証ロゴの有料化は、メーカーの利益率が1～2割なので、1%程度の安価な認証料で、長く続けていくことで良いのではないか。研究開発された優れた商品が短期間で消えることはない。
- ・大賞を出すには、相応の社会的責任が生まれる。認証の信頼性は、しっかり担保しなくてはいけない。複数の商品を使用し、比較検討してデータをとるなどして、根拠に基づいて賞を出すように、審査態勢を改善、充実しなくてはいけない。
- ・現在、省庁が承認したものでさえ、その承認の責任が問われている。賞を出すには、しっかりしたリスク管理が必要である。

### 3 研究所活動の方向性

- ・上記、議論を受けて、会議資料「次期事業構想及び事務局組織について」に基づいて、吉田が、研究所活動の構想の概要について説明

#### 4 事務局の編成等

##### ① 役割分担

- ・同じく、会議資料「次期事業構想及び事務局組織について」に基づいて、活動の方向性を実行するための事務局の役割分担について、検討方向について説明
- ・担当（案）について、吉田が口頭説明
  - ・事務局長 → 根本大輔
  - 事務局長・代表理事補佐 → 根本健児
  - ・防災グッズ部門 → 岡田満（企業との関係全般）  
東谷淳（営業企画担当）
    - ・自治体との連携 → 吉田明生、濱崎哲郎
    - ・イベント → 里雅之
  - ・メンタルヘルス部門 → 吉田明生
  - ・研究開発部門 → 小川知彦
  - ・文化部門 → 柏木白光（管理等は、小川知彦）
  - ・広報（情報発信）部門 → 名取貞
  - ・認証事業部門 → 濱崎哲郎

##### ② (株)おみくじ工房との関係等

- ・外部から、研究所が防災グッズ販売を専業としているような誤解を招かぬよう、分離する方向で検討する。

##### ③ 定款改正

- ・事務局の編成等を決めた後、定款を修正する。

#### 5 その他

- ・御殿場市主催 防災リーダー等ステップアップ研修 成果
- ・第2回防災グッズ展反省会
  - 目的：会員等からの意見聴取と交流
    - ・東谷さんが、11月中の候補日を数日挙げて企業と調整後、決定する。
    - ・京王デパートへの防災グッズ出店を提案しているMCM、京王デパート等を含み、幅広く調整する。

以上